

滋賀県立高等専門学校構想推進本部会議（第4回）議事概要

令和6年2月2日開催(16:00~17:05)

出席者：

三日月知事、井手公立大学法人滋賀県立大学理事長、栢木野洲市長
学識経験者（八尾 健 氏、渡辺 圭子 氏）

三日月知事（本部長）：

- ・前回の会議で基本構想 2.0 の策定に向けて様々な御指摘をいただいた。本日は、それをどのように加え、修正するかということをお確認いただきたい。
- ・構想の冒頭に「はじめに」として、私の想いを記載した。近江富士である三上山が見下ろす地に建設するので、自然の中で自然とともに生きていくということをみんなで考えていくことを大事にしたい。また、学生がふと自分のことを考えたり、原点を思い出す「根源の森」のようなものを整備できないかということも考えているところ。そして、子どもたちへ、教員の皆様へ、一緒に共創していく産業界と地域の皆様へメッセージを記し、最後に循環・共創・挑戦というこの高専でやりたい3つの柱について、改めて私の想いを示させていただいた。
- ・この基本構想 2.0 が策定されれば、いよいよ構想から形にしていくフェーズへ入っていく。教員の方々を募集して体制を構築したり、カリキュラムを編成したり、校地となる場所の造成に入らせていただくことになる。
- ・本日もぜひ忌憚のない御意見を賜りたい。

（報道機関 退室）

<議題（1）滋賀県立高等専門学校基本構想 2.0（案）について>

事務局：

資料 1-1 に基づき、基本構想 2.0(素案)からの修正点を中心に説明

（意見交換の概要）

- ・ダイバーシティは色々あるが、特にジェンダーに関して言えば、女子学生の確保やジェンダーバランスが難しいところ。地元にも根差した学校ということでもあるので、おそらく親も地元就職を望んでいるところもあると思う。そういう将来が見えると、親として行かせたいと思う面もあると思うので、地元企業との連携を強く意識されているのは、その意味でも良い。

- ・ジェンダーバランスについては、50:50 を目指すべき。
- ・「入学者確保のため、小・中学校と連携を図る」とあるが、知り合いの小学生の親からは、卒業後の進路も含め、高専がどういうところか分からないと言われる。そういったことを含め、早めに情報発信してもらえると良い。高専という進路があるということに気づけないことがないよう、小・中学校への説明会もしていただきたい。
- ・やはり高専がどういう学校かという点が正確に知られていないと感じる。学校設置の認可が下りているいないにかかわらず、高専はこんなところだということを知りやすく周知していただきたい。
- ・広報では、どのような学校か正確に知ってもらうためにも、来年度から色々なところに出かけて行って、今からできるアプローチを考えてもらいたい。
- ・休学・退学の理由は、経済的事情やミスマッチといったことがあるが、ミスマッチをなくす意味でも、広報をしっかりとする必要はある。また、休学・退学には、一定割合でメンタルの問題もある。ミスマッチの問題ともつながるが、メンタルサポートをどうしていくかは重要。県の他の施設や県立大学に既にあるサポートの利用なども含め、今後検討される方が良い。
- ・休学・退学・メンタルサポートについて、全てを高専、県立大学だけではできないとしても、社会資源や近隣の学校、専門家のサポートもいただきながら心が行き届いたサポートを考えてもらいたい。
- ・大学では、1年生には春と秋に全員を対象に面談をしたり、2年生以降も単位取得が一定ラインを下回る学生に対して面談を行っている。そういう機会にメンタルや学習のサポートにつながる働きかけを行っている。学生は、自発的にはなかなか相談に来ないので、能動的なサポートが必要だと思う。
- ・基本構想を実現していくのは結局人であるため、いかにこの構想を理解して実行できる人を配置するかが、今後重要。
- ・地域と連携した PBL を重視しているということであるので、地域と高専とのコーディネーター役を担える職員の配置が重要。
- ・地域連携コーディネーターの配置は不可欠だと思う。どんな人材がどの程度の数必要で、どういうことを担っていただくのかということを含めて考える必要がある。
- ・PBL について、学生の教育のためには過程が大事だが、とはいえ地域への貢献という点で言えば、課題の解決も大切という説明だが、両方ともやるのであれば、いっそ最初から両方やると宣言してしまう方が良いのではないか。
- ・PBL に関して、教育のための過程と、地域貢献としての課題解決のどちらかではなく、その両方をイメージした PBL で良いのではないか。
- ・防災の視点は重要。自然の中で生きていく、豊かに・健やかに暮らしていくということに技術がどう貢献できるかという視点を大事にすべき。
- ・高専では、デジタル技術をベースに学ぶが、デジタル技術についてはデータサイエンスの

部分についても欠かせないテーマではないか。

<議題 (2) 報告事項について>

栢木野洲市長：

資料2に基づき、隣接国有地の検討状況について説明

(意見交換の概要)

特になし

以上